

2020年度 常磐大学 SDGs関連事業報告書

(対象期間： 2020年4月1日～2021年3月31日)



全学国際化推進会議

事業種別	事業名/研究・プロジェクト名/ 著書・学術論文等の名称	実施日/開始日 発行または発表日	本学参加者/担当 教員/所管部署	連携先/主催 組織/発行所 /対象等	概要	
<div style="background-color: #f08080; padding: 5px;">  ゴール1: 貧困をなくそう </div>						
1-1	奨学金・納付金減免 諸澤幸雄奨学金	2020年4月1日	学生支援センター	常磐大学/学 生14名	人物・学業ともに優れ、経済的に学業の継続が困難となった者、または家計状況が急変し、経済的に学業の継続が困難となった者に対し、奨学金を給付した。	
1-2	授業・地域連携(学 生によるアウトリー チ)	常磐大学ファームプロジェクト	2020年4月～2021年 3月	松原哲哉准教授 ゼミナール学生	常磐大学/1. 概要:2007年度より本ゼミが地域と連携協力し、ひたちなか市枝川と常陸太田市上利員の二箇所の耕作放棄地を再活用して、コシヒカリ、ユメカオリ(小麦)、常陸秋蕎麦を栽培、それらの収穫物を使って、以下2つの地会」、2.ひたちなか市民 1. 福島県の子供達を放射線被爆から守る活動を展開する「ふくしまの子供達とつながる茨城保養の会」の運営会議にゼミ学生が出席。また、同会が桜川市で福島在住の親子を対象に開催する被曝保養行事に、上記ユメカオリを提供。 2. ひたちなか市内の正安寺と連携し、同寺主催の「こども食堂」(12/9実施)で市内の50名の親子を対象に、上記の常陸秋蕎麦を使った蕎麦会を開催。	
1-3	地域協力(学生によ るアウトリーチ)	社会福祉法人水戸市社会福祉協 議会が運営する「すてっぶ赤塚」 「すてっぶ吉沢」「すてっぶ末広」 「すてっぶ浜田」における子どもの 学習支援事業ボランティア	2020年6月～2021年 3月	人間科学部・看護 学部学生/地域連 携センター	社会福祉法人 水戸市社会福 祉協議会/水 戸市内児童	水戸市社会福祉協議会の依頼により、水戸市内4ヵ所における児童の学習支援事業に学生をボランティアとして派遣した。
1-4	地域協力(学生によ るアウトリーチ)	NPO法人ひと・まちねっとわーく依 頼桜川市・小美玉市学習支援事 業ボランティア	2020年6月～2021年 3月	人間科学部・総合 政策学部学生/地 域連携センター	NPO法人ひ と・まちねっ とわーく/桜川 市・小美玉市 内児童	桜川市・小美玉市学習支援事業に学生をボランティアとして派遣した。
1-5	シンポジウム・講演 会主催	オンライン・シンポジウム「Withコ ロナ時代のSDGs」開催	2020年11月24日	富田敬子学長/地 域連携センター	常磐大学/一 般市民	基調報告「SDGs最新の動向」では富田敬子学長が、Withコロナ時代の活用術として「危機管理対策強化、テレワーク等の導入、労働慣行、雇用形態を見直し女性の活用」などについて報告。その後、藤田正孝国際機関日本アセアンセンター事務総長が「コロナ禍と貧困」、高橋靖水戸市長が「コロナ禍と保健医療」、三富和代NPO法人ウイメンズネットら「代表理事が「コロナ禍といのち・暮らし」、三村信男茨城大学地球・地域環境共創機構特命教授が「コロナ禍と環境・災害問題」について事例発表を行った。
<div style="background-color: #f08080; padding: 5px;">  ゴール2: 飢餓をゼロに </div>						
2-1	地域連携(学生によ るアウトリーチ)	「いばらきの地魚プロジェクト」開 始	2020年10月～	健康栄養学科飯村 裕子助教、ゼミナ ール学生、経営学科	いばらきの地 魚取扱店認証 委員会	いばらきの地魚取扱店認証委員会と常磐大学が連携協力し、「いばらきの地魚プロジェクト」が開始。このプロジェクトは、地元茨城県産の水産物「いばらきの地魚」の流通促進・流通拡大と県民に対する地魚の認知度向上を図る取り組みを行っている「いばらきの地魚取扱店認証委員会」が抱えている問題点・課題の解決に向けて取り組むもの。2020年度、この課題に取り組むのは、人間科学部の健康栄養学科と総合政策学部の経営学科。2021年1月には報告会をオンラインで実施した。
2-2	授業・地域連携(学 生によるアウトリー チ)	「米粉消費拡大プロジェクト2020」 の最終報告会	2020年10月26日	村中均准教授、ゼミ ナール学生	水戸市穀物改 良協会	経営学科村中均ゼミナール(3年生)が、7月～10月に取り組んだ「米粉消費拡大プロジェクト2020」の最終報告会をオンラインで開催。米粉の調理方法や米粉を使用した食品についてSNS(Instagram、Twitter、ブログ)で情報を発信することで、米粉の認知度の向上を目指し、さらにSNS上の反応(閲覧数「いいね」の数、フォローワーの数等)を分析し、効果的なSNSによるプロモーション方法の探求も課題とし、活動を行った。
<div style="background-color: #f08080; padding: 5px;">  ゴール3: すべての人に健康と福祉を </div>						
3-1	地域連携(学生によ るアウトリーチ)	フロイデ水戸メディカルプラザ連 携活動	2020年4月～2021年 3月	健康栄養学科/地 域連携センター	医療法人博仁 会	フロイデ水戸メディカルプラザに併設するコミュニティカフェにて、本学学生が考案したランチメニューの提供を行った。
3-2	研究(科学研究費補 助金)	自閉症スペクトラム障害を有する 思春期の子どものレジリエンス・モ デルの構築	2018年度～2021年 度	海野潔美助教	日本学術振興 会	知的障害を伴わず通常学級に在籍する小学5年生から高校生までの自閉症スペクトラム障害(発達障害の一つ、以下ASD)の診断がついている子どもとその養育者を対象に、子どもの自己像、子どもの困りごととその対処方法などインタビュー調査を行い、子どもの対象者のレジリエンス(心のしなやかさを生かした立ち直る力)をGrotbergのレジリエンスの枠組みである「個人の内面の強さ(I am)、周囲からの支援(Have)、対処する力(I can)」に基づき分析を行い、思春期のASDの子どものレジリエンスの構成要素を明らかにし、醸成のためのモデル構築を行う。
3-3	研究(科学研究費補 助金)	慢性期統合失調症者の実行機能 を高める看護介入プログラムの開 発と検証	2019年度～2022年 度	福田大祐専任講師	日本学術振興 会	統合失調症の慢性期では前頭葉(脳機能)の低下により、日常生活において物事を遂行するために重要な実行機能障害が顕著となる。本研究では、これまでに申請者が開発した軽度認知障害者の実行機能を高める介入プログラムの研究成果を慢性期統合失調症者に活用し、非ランダム化比較試験にて効果を検証する。

事業種別	事業名/研究・プロジェクト名/著書・学術論文等の名称	実施日/開始日/発行または発表日	本学参加者/担当教員/所管部署	連携先/主催組織/発行所/対象等	概要	
3-4	研究(科学研究費補助金)	子育てに関するヘルスリテラシーの獲得を基盤とした子育て支援モデルの構築	2020年度~2022年度	村井文江教授(代表)、中田久恵准教授(分担)	日本学術振興会	1歳半までの子育て期にある母親のヘルスリテラシーの獲得について、促進要因・阻害要因も含め明らかにする研究。
3-5	研究(学内課題研究)	慢性期統合失調症者の実行機能障害と手動的ADL(日常生活動作)との関連性の検討	2018年度~2020年度	福田大祐専任講師(代表)、池内彰子准教授	常磐大学	外来へ通院中の統合失調症者の実行機能障害の特徴を明らかにし、日常生活や服薬管理の遂行に必要な手動的ADLとの関連性を検討した。本研究で得られた知見は、慢性期統合失調症者の実行機能を高める看護介入の基礎的な資料として、患者の地域での主体的な生活を支援しリカバリーを促していくために有用であると考えられた。研究成果は国際学会および国際誌にて発表された。
3-6	地域連携(講師派遣)	「ヒアリングボイスのピア(当事者)の語る会」	2020年4月~2021年3月(月1回)	渡辺めぐみ准教授	社会福祉法人 町にくらす会	社会福祉法人 町にくらす会の地域活動支援センター・相談支援事業所の共同開催「ヒアリングボイスのピア(当事者)の語る会」でファンリレーターを務め、併せてグループセラピーを実施した。
3-7	地域連携(講師派遣)	笠間市内小・中・義務教育学校教職員対象「公衆衛生講演会」講師派遣	2020年6月	看護学部教員	笠間市/笠間市教育委員会	笠間市教育委員会主催笠間市内小・中・義務教育学校教職員対象「公衆衛生講演会」講師として本学教員を派遣した。
3-8	地域連携(協定)	常磐大学・常磐短期大学および社会福祉法人水戸市社会福祉協議会と包括連携協定の締結	2020年7月21日	地域連携センター	社会福祉法人 水戸市社会福祉協議会	次の項目の推進のために、常磐大学・常磐短期大学および水戸市社会福祉協議会との間で包括連携協定を締結した。 ・地域福祉の発展に関すること ・福祉人材の育成に関すること ・調査・研究事業に関すること ・その他前条の目的を達成するために必要な事項に関すること
3-9	地域連携(講師派遣)	「世界の健康格差と国際協力」(「国際保健活動」授業内特別講師)	2020年7月27日	橋本麻由美准教授	茨城県立医療大学	茨城県立医療大学の授業「国際保健活動」において、「世界の健康格差と国際協力」をテーマに特別講義を行った。
3-10	論文(学内紀要論文)	「日本の高齢者における「食行動」と「健康」の関連性についての検討-国内外の文献によるシステムティックレビュー」	2020年9月30日	田中基晴教授(筆頭)、菅原直美専任講師	常磐大学人間科学部紀要	常磐大学人間科学部紀要第38巻第1号に「日本の高齢者における「食行動」と「健康」の関連性についての検討-国内外の文献によるシステムティックレビュー」が掲載された。
3-11	研究(外部研究助成)	「SDGs Goal3から捉えた思春期入り口からの家庭における性教育支援プログラム開発-小学校3年生の子どもを持つ保護者の家庭における性教育の実態とニーズ調査-」	2020年10月2日	南雲史代専任講師、研究協力者:中田久恵准教授、村井文江教授	2020年度(株)常陽銀行「持続可能社会に向けた地域の環境づくり活動」教育研究助成事業に、「持続可能社会に向けた地域の環境づくり活動」教育研究助成	(株)常陽銀行「持続可能社会に向けた地域の環境づくり活動」教育研究助成事業に、「SDGs Goal3から捉えた思春期入り口からの家庭における性教育支援プログラム開発-小学校3年生の子どもを持つ保護者の家庭における性教育の実態とニーズ調査-」が採択された。親子性教育後の講話に参加した保護者に対し、家庭における性教育の実態とニーズ調査を実施した。調査結果から、保護者と専門職/研究者のパートナーシップに基づく性教育支援プログラムの開発が求められていることが明らかとなった。
3-12	研究(外部研究助成)	「多文化共存社会を目指して:新型コロナと在留外国人の暮らし」	2020年10月2日	橋本麻由美准教授	2020年度(株)常陽銀行「持続可能社会に向けた地域の環境づくり活動」教育研究助成	(株)常陽銀行「持続可能社会に向けた地域の環境づくり活動」教育研究助成に、「多文化共存社会を目指して:新型コロナと在留外国人の暮らし」が採択された。地域内に在住する外国人を対象に、新型コロナに係る情報や保健医療サービスへのアクセス状況について調査を行った。
3-13	学会発表	「高齢者における食行動と健康、生活の質の関係についての文献を用いた検討(第2報)」	2020年10月20-22日	田中基晴教授、菅原直美専任講師	第79回日本公衆衛生学会総会、京都(オンライン開催)	第79回日本公衆衛生学会総会で、「高齢者における食行動と健康、生活の質の関係についての文献を用いた検討(第2報)」の発表を行った。
3-14	シンポジウム・講演会主催	オンライン・シンポジウム「Withコロナ時代のSDGs」開催	2020年11月24日	富田敬子学長/地域連携センター	常磐大学/一般市民	基調報告「SDGs最新の動向」では、富田敬子学長が、Withコロナ時代の活用術として「危機管理対策強化、テレワーク等の導入、労働慣行、雇用形態を見直し女性の活用」などについて報告。その後、藤田正孝国際機関日本アセアンセンター事務総長が「コロナ禍と貧困」、高橋靖水戸市長が「コロナ禍と保健医療」、三富和代NPO法人ウィメンズネットが「コロナ禍といのち・暮らし」、三村信男茨城大学地球・地域環境共創機構特命教授が「コロナ禍と環境・災害問題」について事例発表を行った。
3-15	学会分科会座長	第35回日本助産学会国際委員会分科会「Midwifery for all, Reproductive health for all - Challenges for the future- 助産師トーク:世界に発信しよう日本の助産師の現在と未来」座長	2020年11月24日	橋本麻由美准教授	第35回日本助産学会	第35回日本助産学会学術集会で、「Midwifery for all, Reproductive health for all - Challenges for the future- 助産師トーク:世界に発信しよう日本の助産師の現在と未来」というテーマで、国際委員会の分科会の座長を務めた。
3-16	地域連携(講師派遣)	「複雑性PTSDケースにおいて自我状態を扱うセラピー」(イブシロン臨床心理研究会主催研修会講師)	2020年12月6日	渡辺めぐみ准教授	イブシロン臨床心理研究会/臨床心理士、公認心理士、医師、心理療法家を目指す大学院生	渡辺めぐみ准教授が、「複雑性PTSDケースにおいて自我状態を扱うセラピー」と題して、研修会講師を務めた。
3-17	地域連携(講師派遣)	「ストレスマネジメント研修」(日立市職員研修)	2020年12月9日	馬場久美子准教授	日立市/日立市職員	日立市職員対象の実務教養研修メンタルヘルスに関するテーマにおいて、「ストレスマネジメント研修」を担当した。
3-18	学会発表	Educational values and challenges in assessing the competencies of nursing students in Laos	2020年12月12日	橋本麻由美准教授	第40回日本看護科学学会学術集会	第40回日本看護科学学会学術集会の英語セッションで、「Educational values and challenges in assessing the competencies of nursing students in Laos」をテーマに発表を行った。
3-19	地域連携(講師派遣)	「国際活動と諸外国の助産」(「助産学概論」ゲストスピーカー)	2021年2月15日	橋本麻由美准教授	新潟県立看護大学	新潟県立看護大学の授業「助産学概論」のゲストスピーカーとして、「国際活動と諸外国の助産」をテーマに、オンラインで講義を行った。

事業種別	事業名/研究・プロジェクト名/著書・学術論文等の名称	実施日/開始日 発行または発表日	本学参加者/担当 教員/所管部署	連携先/主催 組織/発行所 /対象等	概要	
3-20	地域連携(講師派遣)	「コロナ禍でのゲートキーパーの役割」(常陸太田市自殺予防の取り組み)	2021年2月16日	渡辺めぐみ准教授	常陸太田市里美地区民生委員・児童委員協議会	常陸太田市の自殺予防の取り組みとして、里美地区民生委員、児童委員を対象に、こころのケアを中心とした「コロナ禍でのゲートキーパーの役割」について講演を行った。
3-21	地域連携(表彰)	茨城県「健康づくり推進事業功労者表彰」茨城県知事賞を受賞	2021年3月5日	水口進教授	茨城県	水口教授は、臨床心理士として、保健所が実施する移動発達相談において発達に遅れのある児童や育児不安を抱える保護者への個別相談に応じるとともに、保育所職員等への助言指導の活動を多年にわたり行っており、地域の母子保健の推進への貢献が高く評価された。
3-22	論文(学外雑誌論文)	A consideration on the protective effect of masks against infection of new coronavirus (SARS-CoV-19)	2021年3月20日	田中基晴教授	ライフサイエンス出版『薬理と治療』 2021.49, 377-383	新型コロナウイルス感染症に対するマスクの予防効果についての総説を論文として執筆。『薬理と治療』に掲載された。



4 高い思い・育育を
みんなに
ゴール4: 質の高い教育をみんなに



4-1	研究(学内課題研究)	海外留学・研修プログラム参加学生の海外体験の意味づけに関する研究	2018年度~2020年度	飯野令子准教授	常磐大学	派遣留学等の参加学生への調査をもとに、海外体験の必要性、有用性を示し、本学学生の海外プログラムへの参加者を増加させること、そして本学学生にとって有益で魅力的な海外体験へ向けて、本学主催のプログラムの改善・開発を行っていくことを目的としていた。学生自身の視点から海外プログラム参加のきっかけや、海外体験の意味づけを、その背後にある学生の生育歴や生活環境も含めて調査し、長期的な視野から体験の意味づけの変化を探った。
4-2	研究(科学研究費補助金)	ボランティア日本語教室における継続的内容改善と持続可能な運営システムの構築	2019年~2021年	飯野令子准教授	公益財団法人水戸市国際交流協会	茨城県水戸市で開設されている「生活者としての外国人」のための複数のボランティア日本語教室が、研究者および水戸市国際交流協会とともに、内容面の継続的改善と持続可能な運営を可能にする「水戸システム」を構築するものである。本研究の特色は、これまで文化庁や地域日本語教育研究者の提案には入れられず、先進的な取り組みから切り離されてきた、「学校型」の教室活動を続ける既存のボランティアとの協働により、ともに新規ボランティアを育成しながら、既存のボランティアにも活動内容の変化を求めることである。
4-3	研究(科学研究費補助金)	ボランティア日本語教室における継続的内容改善と持続可能な運営システムの構築	2019年度~2021年度	飯野令子准教授	日本学術振興会	茨城県水戸市で開設されている「生活者としての外国人」のための複数のボランティア日本語教室が、研究者および水戸市国際交流協会とともに、内容面の継続的改善と持続可能な運営を可能にする「水戸システム」を構築することを目的とし、①既存の日本語教室の地域日本語教育に適した活動への転換と持続的な改善、②日本語ボランティアの安定的な確保と定着を目指した研究を行う。
4-4	研究(科学研究費補助金)	視覚障害生徒への優れた理科授業実践の理論化・系統化と健常生徒の理科授業への示唆	2020年度~2022年度	大高泉教授(代表)、石崎友規准教授(分担)	日本学術振興会	2つの柱の第一に、世界的に最も進んでいるといわれている日本の視覚障害生徒に対する理科授業の実践(教師の言語的説明と独自の教材との関連等々)を分析し、視覚情報を遮断されている視覚障害生徒を対象にした固有で優れた理科授業・学習ストラテジーを理論化・系統化する。第二に、その成果を踏まえ、視覚情報偏重と見なされる健常生徒対象の一般の理科授業を革新する知見を提供する。
4-5	生涯学習	常磐大学オープンカレッジ	2020年度春・秋	地域連携センター	常磐大学/一般市民	2020年度は新型コロナウイルス感染拡大のため、オンラインにて6つの教養講座を実施した。
4-6	地域協力(学生によるアウトリーチ)	令和2年度茨城県立歴史館ボランティア学生派遣	2020年4月~2021年3月	人間科学部学生/地域連携センター	茨城県立歴史館	令和2年度茨城県立歴史館ボランティアとして本学学生を派遣した。
4-7	授業・地域連携(学生によるアウトリーチ)	「常磐大学生きものの森プロジェクト」	2020年4月~2021年3月	松原哲哉准教授、ゼミナール学生	「花王・みんなの森作り活動助成」、「エコーいばらき環境保全基金」、「いばらきコープ環境基金」助成/常磐大学、常磐大学幼稚園	2018年度より本ゼミが、「花王・みんなの森作り活動助成」、「エコーいばらき環境保全基金」、「いばらきコープ環境基金」の助成を受けて開始した活動。「五感で楽しめる身近な環境教育の場作り」をテーマに、学内外に広がる「常磐の森」の動植物の保全、植樹を実施。さらに、常磐大学幼稚園と連携して、自生サイクルを回復させたゲンジボタルの観賞会を開催。
4-8	生涯学習	「常磐社会人大学」	2020年4月~2021年3月	松原哲哉准教授	一般市民	「地域に開かれた大学教育」を目指して2016年後期より開始し、2020年度で開講回数150回を超えた生涯学習に関連する自主的教育活動。毎週水曜日の午後2時間、E.Gombrichの名著、「The Story of Art」の原書講読を行いながら、西洋美術史を講じる。
4-9	地域協力(学生によるアウトリーチ)	社会福祉法人水戸市社会福祉協議会が運営する「すてつぷ赤塚」「すてつぷ吉沢」「すてつぷ末広」「すてつぷ浜田」における子どもの学習支援事業ボランティア	2020年6月~2021年3月	人間科学部・看護学部学生/地域連携センター	社会福祉法人水戸市社会福祉協議会/水戸市内児童	水戸市社会福祉協議会の依頼により、水戸市内4カ所における児童の学習支援事業に学生をボランティアとして派遣した。
4-10	地域協力(学生によるアウトリーチ)	NPO法人ひと・まちなつとわーく 頼桜川市・小美玉市学習支援事業ボランティア	2020年6月~2021年3月	人間科学部・総合政策学部学生/地域連携センター	NPO法人ひと・まちなつとわーく/桜川市・小美玉市内児童	NPO法人ひと・まちなつとわーくの依頼により、桜川市・小美玉市学習支援事業に学生をボランティアとして派遣した。
4-11	地域連携(講師派遣)	「仕事に対するモチベーション維持と向上」(株式会社東日本技術研究所社員研修)	2020年6月27日	高木幸子准教授、寺島哲平専任講師/地域連携センター	株式会社東日本技術研究所/同社社員	株式会社東日本技術研究所の社員研修をオンラインで提供。「仕事に対するモチベーション維持と向上」をテーマに、高木幸子准教授と寺島哲平専任講師が研修講座を行った。

事業種別	事業名／研究・プロジェクト名／著書・学術論文等の名称	実施日／開始日 発行または発表日	本学参加者／担当 教員／所管部署	連携先／主催 組織／発行所 ／対象等	概要	
4-12	国際交流	2020年度常磐大学交換留学制度採用学生(派遣・受入)のオンライン交流会	2020年6月30日 2020年7月7日	本学学生・協定校学生(国際交流語学学習センター)	海外協定校	常磐大学交換留学制度で協定校への派遣留学に採用された本学学生と、本学への留学に採用となっていた海外協定校学生同士が繋がりを、留学に向けた思いを共有する機会を提供するため、オンライン交流会を開催した。
4-13	地域連携(会議構成員協力)	令和2年度茨城県地域日本語教育の体制づくり推進事業 総合調整会議構成員	①2020年7月3日 ②2020年10月16日 ③2020年12月18日 ④2021年3月(書類)	飯野令子准教授	茨城県	茨城県は令和2年度から3年計画で文化庁の助成をうけ、地域日本語教育の体制づくりを推進することになった。その事業全体の内容について議論する会議の一員となり、計4回の会議に出席した。
4-14	地域連携(交流会指導協力)	茨城日本語ボランティアネットワークオンライン交流会開催	①2020年7月16日 ②2021年2月3日	飯野令子准教授	茨城県	令和2年度初めから運営している日本語ボランティアのためのウェブサイトを通して、オンライン交流会を呼び掛け、2回実施した。1回目はボランティアがオンラインに慣れること、2回目はオンラインでの日本語教室の開催について、情報提供と情報交換を行った。1回目は20名ほど、2回目は40名ほどの参加があった。
4-15	地域連携(講師派遣)	「社会と子どもたちをつなぐSDGs教育ーSDGs達成に向けた学校教育の役割ー」(令和2年茨城県市町村教育長協議会夏期研修会)	2020年7月20日	富田敬子学長／地域連携センター	茨城県市町村教育長協議会	富田敬子学長が、「社会と子どもたちをつなぐSDGs教育ーSDGs達成に向けた学校教育の役割ー」をテーマに講演。SDGsがどういったものなのか、またそれを推進していくために学校教育の現場において、どのように子どもたちに学ばせ、知識や意識を身に付けさせるかなど、取り組みや事例を紹介した。
4-16	論文(学外招待論文)	「協働学習と異文化コミュニケーションー内なる国際化」が進む日本で高等教育機関は何を求められているか」(第12回国際日本語教育・日本研究シンポジウム論文集「多言語世界における日本語教育の変遷『Changing nature of Japanese language teaching and learning in a multilingual world』」(シンポジウム内での発表からの招待論文)	2020年7月31日	平田亜紀准教授	『リンガフランクとしての日本語』第5章109-132頁、(共著者:佐藤良子、平田亜紀、福本明子、宮崎新)、明石書店	2018年に開催された第12回国際日本語教育・日本研究シンポジウムより7本選出された研究のうちの一つに選ばれた本件をまとめたもの。異文化能力を持つグローバル人材育成の現場についての実践報告。留学生との交流を課内、課外、そして留学生がいないことを想定した環境での授業展開についてその効果とともに紹介した。担当箇所では、授業外で行われた留学生との協働企画についてその有用性を評価した。
4-17	地域連携(講師派遣)	「生涯学習概論～生涯学習についておさえよう～」(茨城県鹿行生涯学習センターボランティア養成研修)	2020年8月20日	松橋義樹助教／地域連携センター	茨城県鹿行生涯学習センター／一般市民(ボランティア志望者)	ボランティア活動の活性化を図るための「ボランティア養成研修」で、「生涯学習概論～生涯学習についておさえよう～」と題し、生涯学習の理念や生涯学習とボランティア活動の関連等について講義を行った。
4-18	論文(学内紀要論文)	派遣留学生の経験を理解し今後の指導につなげるー学生のライフストーリーの聞き取りを中心にー	2020年9月1日	飯野令子准教授	『常磐大学人間科学部紀要人間科学』第38巻、第1号(単著)	本学の教職員が、学生の留学を阻害する要因を取り除くために、どのような働き掛けを行っていくか、留学経験者や留学志望者をどのように指導していくか検討することを目的とした。2018年度派遣留学生7名のライフストーリー・インタビューおよび、留学振り返りシートについて、5つのカテゴリー(1)異文化間能力・外国語運用能力、(2)学業、(3)社会性・人としての成長、(4)雇用され得る能力、(5)社会貢献を視点に分析した。
4-19	地域連携(講座指導協力)	水戸市初級日本語ボランティア養成講座修了者の会開催	①2020年9月30日 ②2020年12月23日 ③2021年3月24日	飯野令子准教授	水戸市	2019年度から継続的に実施しているが、2020年度前半は感染症予防の観点から開催していなかった。9月から再開し、これまで通り、日本語ボランティア活動の情報交換と活動へのアドバイスを行っている。
4-20	地域連携(講師派遣)	水戸啓明高校 地域国際交流授業協力	2020年10月6日、13日	飯野令子准教授	水戸啓明高校教員／生徒	高校教員とオンラインで事前の打ち合わせを行い、その後2回にわたり、本学正規留学生と高校生が、オンラインで地域の多文化共生を考えるディスカッションに協力した。留学生に対しては水戸市の住みやすきについて、外国人の目線で考える事前、事後の指導を実施した。
4-21	地域連携(講師派遣)	ひたちなか市初級日本語ボランティア養成講座講師	2020年10月7日～ 2021年2月17日(全10回)	飯野令子准教授	ひたちなか市国際交流協会	茨城県国際交流協会の日本語教育アドバイザー派遣事業で、ひたちなか市の国際交流協会に派遣され、日本語ボランティア養成講座の講師を務めた。受講者12名で、前半は対面、後半はオンラインで、地域の日本語教室向けの日本語支援の方法を指導した。
4-22	高大連携(海外研修事前研修受託)・国際交流	茨城県立緑岡高等学校令和2年度海外短期留学(バンクーバー研修)事前研修	2020年10月～3月	富田敬子学長、砂金祐年教授、正木聡教授、小関一也准教授、元木理寿准教授、佐々木一如准教授、山田誠治助教	茨城県立緑岡高等学校バンクーバー研修参加予定者、カナダ・ランガラレッジ学生	茨城県立緑岡高等学校の依頼を受け、令和2年度海外短期留学(バンクーバー研修)事前研修を実施。カナダの歴史、地理、政治、経済、文化、社会等をテーマに8回の講義を提供。 ①(10/13)カナダの歴史～先住民族と移民が築いた歴史(富田敬子学長) ②(11/5)地理学から読み解くカナダ～地域の持続可能性を考える(元木理寿准教授) ③(11/10)カナダの政治～ブリティッシュ・コロンビア(英連邦)としての政治体制と地方自治(砂金祐年教授) ④(11/19)日本人のカナダ観光の変遷と現状(正木聡教授) ⑤(12/3)カナダ経済の特徴とグローバル経済から見る日加関係(山田誠治助教) ⑥(12/22)カナダ社会の多様性～多文化主義とマイノリティ(小関一也准教授) ⑦(1/26)カナダの行政と危機管理～社会の「安全」と「安心」はどこから来るのか?(佐々木一如准教授) ⑧(1/28)グローバル社会とSDGs(富田敬子学長) さらに、3月30日には、本学のカナダの協定校であるランガラ・カレッジの学生有志とオンラインで交流を行った。
4-23	地域連携(講師派遣)	「児童の発達理論」(茨城県児童館連絡協議会主催「令和2年度第2回児童館等職員研修会」)	2020年10月14日	水口進教授／地域連携センター	茨城県児童館連絡協議会／茨城県内児童館職員	茨城県内の児童館等で働く職員を対象とした研修会で、「児童の発達理論」をテーマに講義を行った。

事業種別	事業名/研究・プロジェクト名/ 著書・学術論文等の名称	実施日/開始日 発行または発表日	本学参加者/担当 教員/所管部署	連携先/主催 組織/発行所 /対象等	概要	
4-24	地域連携(講師派遣)	水戸市日本語プレ初級クラス・ コーディネーター	①2020年11月18日 ～12月18日(全10 回) ②2021年2月17日～ 3月18日(全10回)	飯野令子准教授	公益財団法人 水戸市国際交 流協会	水戸市国際交流協会が主催する日本語クラスの講師と、講師陣をまとめコース内容を総括するコーディネーターを担当した。水戸市と近隣市町村在住の、来日直後、あるいはこれまで日本語学習機会のなかった外国人を対象にした日本語入門クラスである。講師会議、授業ともに対面での実施をした。
4-25	研究会発表	「コロナ禍における教材としての景 観写真の活用とESD展開」	2020年12月6日	元木理寿准教授	上州ぐんま ESD実践研究 会・群馬県	上州ぐんまESD実践研究会・群馬県環境森林部環境政策課が主催する「第3回上州ぐんま市民環境保全活動発表会&交流会」で、「コロナ禍における教材としての景観写真の活用とESD展開」をテーマに発表。コロナ禍においてフィールドに出られないことで、これまで撮影した景観写真の活用性が高まった。これについて授業での景観写真の活用事例を報告するとともに、ESD展開の可能性について検討した。
4-26	学会発表	Educational values and challenges in assessing the competencies of nursing students in Laos	2020年12月12日	橋本麻由美准教授	第40回日本看護科学学会学術集会	第40回日本看護学会学術集会の英語セッションで、「Educational values and challenges in assessing the competencies of nursing students in Laos」をテーマに発表を行った。
4-27	書籍執筆	『1964年と2020年くらべて楽しむ 地図帳』(茨城県、埼玉県、千葉 県に係るページを分担執筆)	2020年12月25日	元木理寿准教授	『1964年と2020 年くらべて楽しむ 地図帳』松井 秀郎編、二宮 書店協力、山 川出版社	左記書籍の茨城県、埼玉県、千葉県に係るページを次の通り分担執筆した。 ・茨城県―東京大都市圏を支える豊かな自然と産業基盤(PP.66-69)：霞ヶ浦の水資源開発と食糧基地化する周辺地域、大規模な国家プロジェクトによる各種の産業開発の観点から茨城県の変容について解説した。 ・埼玉県―首都東京の拡大により急速に展開した都市化(PP.74-77)：急展開したベッドタウン化と人口増加、歴史と自然を活かした産業・観光の2方向の観点から埼玉県の変容について解説した。 ・千葉県―東京湾岸のリゾート地域開発と後背地の産業の変化(PP.78-819)：臨海工業地域と食糧基地としての変貌、臨海地域の交通とリゾート地域の開発の観点から千葉県の変容を解説した。
4-28	地域連携(外部評価 委員協力)	令和2年度茨城県地域日本語教 育の体制づくり推進事業 新規学 修支援者開拓講座 外部評価委 員	①2021年2月12日 ②2021年3月3日	飯野令子准教授	下妻市・坂東 市	下妻市と坂東市で、新規日本語支援者(日本語ボランティア)開拓講座(3時間×5回)がオンラインで行われた。その内容を目を通し、会議で関係者と議論し、評価の視点を確認したのち、評価を行った。
4-29	論文(学外紀要論 文)	「子どもの音楽教育におけるわら べうたの重要性：カンボジアの遊 び歌から見る」	2021年3月31日	中里南子教授	『群馬大学教 科教育学研究 第20号』令和2 年度25-31 頁、共著者夏 目佳枝(岡崎 壘学校)	群馬大学教科教育学研究第20号令和2年度に「子どもの音楽教育におけるわらべうたの重要性-カンボジアの遊び歌から見る-」を執筆した。カンボジア人が無意識に持つ音楽的感覚に寄り添った教材としてカンボジアの子どもの遊び歌を取り上げ、遊びの魅力を生かしながら音楽学習活動への展開および教材開発の可能性について追究した。
<div style="background-color: #f0f0f0; padding: 5px;"> 5 ゴール5: ジェンダー平等を実現しよう </div>						
5-1	制度改革・規程改正	女性管理職者の登用促進	2020年度	人事給与課	教職員	女性活躍推進法による一般事業主行動計画を踏まえ、女性管理職者の登用促進に努め、新たに1人を統括に登用した。
5-2	地域連携(委員)	水戸市配偶者からの暴力の防止 及び被害者の保護に関する基本 計画検討専門委員	2020年9月～2021年 3月	人間科学部教員	水戸市	水戸市「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する基本計画」検討専門委員として本学教員を派遣した。
5-3	地域連携(学生によ るアウトリーチ)	「水戸市が若者や女性が活躍で き、選ばれるまちとなるために、何 が必要か(水戸市「若者によるエ ビデンスに基づく政策提言発表 会)」	2021年1月19日	北根精美教授、ゼミ ナール学生	水戸市	水戸市役所会議室において行われた「若者によるエビデンスに基づく政策提言発表会」のメインテーマは、「水戸市が若者や女性が活躍でき、選ばれるまちとなるために、何が必要か」。発表当日は、茨城大学2チームとともに、本学北根ゼミ3名が代表として「サテライトオフィス誘致と子育て支援」をテーマに、約20分の発表を行った。
5-4	地域連携(学生によ るアウトリーチ)	「水戸市の若者・女性が活躍で きるまちづくり(水戸市「若者によ るエビデンスに基づく政策提言発表 会)」	2021年3月4日	小笠原尚宏准教 授、ゼミナール学生	水戸市	水戸市「若者によるエビデンスに基づく政策提言発表会」で、「水戸市の若者・女性が活躍できるまちづくり」をテーマに、本学小笠原ゼミ学生がオンラインで発表した。
<div style="background-color: #e0f0ff; padding: 5px;"> 6 ゴール6: 安全な水とトイレを世界中に </div>						
6-1	研究(学内課題研 究)	湧水・水場の共有性と保全管理 規範の変遷に関する基礎研究	2018年度～2020年 度	元木理寿准教授	常磐大学	地域の水循環システムと人間生活との関係性、特に、伝統的地域社会の見直しと持続可能な水利社会のあり方を検討するために、湧水地の共有性と保全管理規範の変遷について調査を行った。
<div style="background-color: #fff9c4; padding: 5px;"> 7 ゴール7: エネルギーをみんなにそしてクリーンに </div>						
7-1	授業	物質とエネルギー	2020年度春セメス ター	中原史生教授	常磐大学/学 生	近年、人間と自然とが関わる問題、特に人口の爆発的増大にともなうエネルギー資源および物質資源の消費の増大と、それらの廃棄にともなう環境汚染の問題が顕在化し、地球規模での危機が強く認識されている。本講義は、地球システムにおける様々な物質の存在形態を紹介し、それらの変化を相互に作用しあう系と系との間の物質循環やエネルギーの流れとして、広い視野から理解を深める内容であった。

事業種別	事業名/研究・プロジェクト名/著書・学術論文等の名称	実施日/開始日/発行または発表日	本学参加者/担当教員/所管部署	連携先/主催組織/発行所/対象等	概要	
7-2	地域連携(委員・受託研究)	東海村研究支援「令和2年度地域と原子力に関する社会科学的研究支援事業」	2020年5月～2021年3月	砂金祐年教授	東海村	東海村による研究支援「令和2年度地域と原子力に関する社会科学的研究支援事業」の成果を、「東海第二発電所の再稼働は関東地方の市町村議会ですら議論されているのか?～論点の多様性と市民意識との比較～」と題した報告書として執筆した。
7-3	シンポジウム・講演会主催	オンライン・シンポジウム「Withコロナ時代のSDGs」開催	2020年11月24日	富田敬子学長/地域連携センター	一般	基調報告「SDGs最新の動向」では、富田敬子学長が、Withコロナ時代の活用術として「危機管理対策強化、テレワーク等の導入、労働慣行、雇用形態を見直し女性の活用」などについて報告。その後、藤田正孝国際機関日本アセアンセンター事務総長が「コロナ禍と貧困」、高橋靖水戸市長が「コロナ禍と保健医療」、三富和代NPO法人ウィメンズネットら、いず代表理事が「コロナ禍といのち・暮らし」、三村信男次城大学地球・地域環境共創機構特命教授が「コロナ禍と環境・災害問題」について事例発表を行った。
8 働きがいも経済成長も  ゴール8: 働きがいも経済成長も						
8-1	制度改革・規程改正	働き方改革に伴う労働環境の見直しと取り組み	2020年度	人事給与課	教職員	時間外労働の是正(残業時間の上限規制)、過労死防止のための健康確保措置の拡充等が盛り込まれた働き方改革関連法案の施行を踏まえ、引き続き定時退勤の勧奨、育児や健康状態など個々の職員が抱える多様な事情への柔軟な対応や、年次有給休暇を取得しやすい環境の整備を推進。
8-2	制度改革・規程改正	女性管理職者の登用促進	2020年度	人事給与課	教職員	女性活躍推進法による一般事業主行動計画を踏まえ、女性管理職者の登用促進に努め、新たに1人を統括に登用した。
8-3	地域連携(講師派遣)	株式会社東日本技術研究所	2020年6月27日	高木幸子准教授、寺島哲平専任講師/地域連携センター	株式会社東日本技術研究所社員36名	株式会社東日本技術研究所の社員研修をオンラインで提供。「仕事に対するモチベーション維持と向上」をテーマに、高木幸子准教授と寺島哲平専任講師が研修講座を行った。
9 産業と技術革新の基盤をつくろう  ゴール9: 産業と技術革新の基盤をつくろう						
9-1	授業	「科学技術論」	2020年度	松原克志教授		現代の社会問題の多くが科学技術の社会的適用の結果であるという前提にたち、科学技術についての倫理的、法的、社会的問題(ELSI: Ethical, Legal, and Social Issues)について検討した。例えば、生命操作、遺伝子組み換え食品、原子力施設、延命治療、コンピューターネットワーク、携帯電話などが具体的な話題となった。授業では報道された問題を紹介し、科学技術の視点から解説し、討論を行った。
9-2	地域連携(委員・受託研究)	東海村研究支援「令和2年度地域と原子力に関する社会科学的研究支援事業」	2020年5月～2021年3月	砂金祐年教授	東海村	東海村による研究支援「令和2年度地域と原子力に関する社会科学的研究支援事業」の成果を、「東海第二発電所の再稼働は関東地方の市町村議会ですら議論されているのか?～論点の多様性と市民意識との比較～」と題した報告書として執筆した。
9-3	研究(外部研究助成)	2020年度(株)常陽銀行「持続可能社会に向けた地域の環境づくり活動」教育研究助成	2021年10月2日	菅田浩一郎准教授		(株)常陽銀行「持続可能社会に向けた地域の環境づくり活動」教育研究助成に、菅田浩一郎准教授の「自立地域中小企業の自立化と国際化におけるLateral Rigidityに関する研究」が採択された。
9-4	特許	「運転免許返納保険装置及び運転免許返納保険システム」特許取得	2021年11月12日	文堂弘之教授		「運転免許返納保険装置及び運転免許返納保険システム」は、運転免許返納後における交通費等の金銭的負担を軽減するという側面から、高齢者ドライバーの運転免許返納を促進させることを目的として、システムを構築し特許を取得した。
10 人や国の不平等をなくそう  ゴール10: 人や国の不平等をなくそう						
10-1	学生支援	障がいのある学生への支援	2020年度	学生支援センター	学生80件	入学前・入学後ともに、障がいのある学生に、保健室および学生相談室を所管する学生支援センターが中核となり、様々な支援を提供した。大学生活において困難を生じている学生については、授業担当者に「配慮のお願い」をし、当該学生が不利益を被らないように対応している。
10-2	地域連携(講師派遣)	ひたちなか市市民大学への講師派遣	2020年10月10日～2020年12月26日	水口進教授	ひたちなか市市民	ひたちなか市市民大学において、水口進教授が「発達障害の理解と支援 ～彼らと楽しくかかわるには～」と題して連続講座を提供した。
11 住み続けられるまちづくりを  ゴール11: 住み続けられるまちづくりを						
11-1	研究(外部研究助成)	「移住した震災ボランティアと地域住民がタグを組んで実践するまちづくり」	2018年8月～2020年7月	且まゆみ教授	サントリー文化財団	サントリー文化財団が主催する研究助成「地域文化活動の継承と発展を考える」に2か年に渡るプロジェクトとして採択された。気仙沼市において、地域の人とともに実践する「まちづくり」の材料として、「屋号」の活用方法を探索するとともに、東日本大震災以前の唐桑半島における地域の人々の生活空間について、「唐桑町屋号電話帳」からいかなる示唆が得られるかを考察した。

事業種別	事業名／研究・プロジェクト名／著書・学術論文等の名称	実施日／開始日 発行または発表日	本学参加者／担当 教員／所管部署	連携先／主催 組織／発行所 ／対象等	概要
11-2	研究(外部研究助成) 「福島イノベーション・コースト構想 で浜通りは復興するのか」	2019年～2020年	土谷幸久教授	三菱財団	福島イノベーション・コースト構想が地域再生に如何にして接続するのかの検証研究。同時に、一般論として産業・社会政策が地域の持続可能性に資するためには何が必要かを模索した。
11-3	研究(学内課題研究) 気仙沼地域における文化遺産の GIS データベース化とその時空間 分析	2020年度～2021年 度	且末ゆみ教授	常磐大学	文化遺産として気仙沼地域で使われている屋号と方言を取り上げ、地理情報システムGISを用いてデータベース化を行い、地域の生活を空間的視点から分析し、まちづくりに生かす方策を研究した。
11-4	研究(外部研究助成) 2020年度(株)常陽銀行「持続可 能社会に向けた地域の環境づくり 活動」教育研究助成	2020年度	菅田浩一郎准教授	常磐大学	日立地域中小企業の自立化と国際化におけるLateral Rigidityに関する研究
11-5	研究(学内課題研究) 地域中小企業国際化の研究	2020年度	菅田浩一郎准教授	常磐大学	2020年度特別奨励研究助成による、「地域中小企業国際化の研究」をテーマにした研究
11-6	研究(学内課題研究) 水戸弘道館聖域の空間構造に関 する学際的研究	2020年度～2022年 度	松崎哲之准教授 (代表)、河野敬一 教授、平野哲也教 授、小笠原尚宏准 教授	常磐大学	水戸藩藩校の弘道館には、その中心に聖域が設けられており、八卦堂・鹿島神社・孔子廟・要石などが設けられている。実は弘道館聖域は弘道館の中心にあるばかりではなく、水戸藩にとって重要な宗教施設の中心でもある。すなわち、徳川家康が葬られている日光東照宮奥宮と水戸城、常陸二宮静神社と常陸三宮吉田神社、水戸東照宮と大甕神社、酒列磯前神社と信楽園のそれぞれを結ぶラインの中心に弘道館聖域が設けられ、さらにその中心に八卦堂が位置しているのである。本研究では、弘道館が何故このような構造をもっているのか、その理論、歴史的背景、技術などを学際的な研究により明らかにしようとするものである。
11-7	地域連携(学生による アウトリーチ)	茨城県警察大学生サポーター 2020年4月～2021年 3月	人間科学部・総合 政策学部学生／地 域連携センター	茨城県内の青 少年(茨城県 警察本部)	茨城県警察大学生サポーターとして本学学生が採用され活動した。
11-8	地域連携(学生による アウトリーチ)	カサマノシネマプロジェクト 2020年4月～2021年 3月	人間科学部・総合 政策学部学生／地 域連携センター	笠間市	笠間市内で保管されている8ミリフィルムをデジタル化する地域映画制作に本学学生が関わった。完成披露上映会では本学学生が主体的な運営を行った。
11-9	地域連携(講師派遣)	かさま志民大学 2020年5月24日	富田敬子学長	笠間市／笠間 市民	かさま志民大学オープンカレッジ第1回に富田敬子学長が、「かさま創生とSDGs—持続可能な地域づくりにむけて—」というタイトルで講演を行った。
11-10	地域連携(委員)	水戸市芸術文化振興有識者会議 委員 2020年7月～2022年 7月	人間科学部教員	水戸市	水戸市芸術文化振興有識者会議委員として本学教員を派遣した。
11-11	地域連携(委員)	かみね公園活性化基本計画策定 調査業務プロポーザル審査委員 会委員 2020年7月～8月	総合政策学部教員	日立市	かみね公園活性化基本計画策定調査業務プロポーザル審査委員会委員として本学教員を派遣した。
11-12	地域連携(協定)	常磐大学と常磐短期大学および 一般社団法人水戸観光コンベン ション協会との包括連携協力協定 書の締結 2020年8月4日	地域連携センター	一般社団法人 水戸観光コン ベンション協 会	水戸市の観光による活性化への連携・協力を目的に、水戸観光コンベンション協会と、次の事項について協定を締結した。 ・地域活性化に関すること ・地域観光の振興に関すること ・コンベンション誘致に関すること ・教育・研究および人材育成に関すること ・その他前条の目的を達成するために必要な事項に関すること
11-13	地域連携(学生による アウトリーチ)	常陸太田市活性化プロジェクト 2020年9月～	総合政策学部	常陸太田市役 所	常陸太田市の活性化策を、本学学生が提案。
11-14	地域連携(協定)	常磐大学と常磐短期大学及び城 里町との連携協力に関する協定 書の締結 2020年9月29日	地域連携センター	城里町	城里町と、次の事項について協定を締結した。 ・知的資源、人的資源および物的資源の相互の活用に関すること ・地域の政策課題に関すること ・地域活性化に寄与する人材の育成に関すること ・共同で実施する事業の企画および推進に関すること ・その他甲、乙および丙が必要と認める事項に関すること
11-15	地域連携(学生による アウトリーチ)	令和2年度「ちくせい若者まちづく り会議」への学生派遣 2020年10月～2021 年3月	総合政策学部学生	筑西市	筑西市の依頼により、令和2年度「ちくせい若者まちづくり会議」に学生を派遣。活性化に向けた活動を行った。
11-16	地域連携(学生による アウトリーチ)	令和2年度「ちくせい若者まちづく り会議」 2020年10月～2021 年3月	総合政策学部学生 ／地域連携セン ター	筑西市	令和2年度「ちくせい若者まちづくり会議」メンバーとして本学学生が活動した。
11-17	地域連携(講師派遣)	防災講話 2020年10月7日	佐々木一如准教授	茨城県立桜ノ 牧高等学校常 北校	「『危機管理』をキーワードに災害対策を考える」というテーマで、佐々木准教授が講話を行った。防災シミュレーションゲーム「クロスロード」も交え、危機管理とは何かについて考える機会を提供した。
11-18	地域連携(講師派遣)	ひたちなか市市民大学への講師 派遣 2020年10月10日～ 2020年12月26日	寺村聖志教授	ひたちなか市 市民	ひたちなか市市民大学において、寺村聖志教授が「ショートトリップ犯罪心理学 ～安心・安全な共生社会推進のために～」と題して連続講座を提供した。
11-19	地域連携(学生による アウトリーチ)	常陸太田市総合計画まちづくり懇 談会委員への学生派遣 2020年11月～2022 年3月	総合政策学部学生 ／地域連携セン ター	常陸太田市	常陸太田市総合計画まちづくり懇談会委員として学生を派遣。常陸太田市のまちづくりに提言などを行った。
11-20	特許	「運転免許返納保険装置及び運 転免許返納保険システム」特許取 得 2021年11月12日	文堂弘之教授	特許庁	「運転免許返納保険装置及び運転免許返納保険システム」は、運転免許返納後における交通費等の金銭的負担を軽減するという側面から、高齢者ドライバーの運転免許返納を促進させることを目的として、システムを構築し特許を取得した。
11-21	学会発表(単著)	「地域における追従型国際化中 小企業の実態:日立地 域の事 例」 2020年11月15日	菅田浩一郎准教授	第27回 全国 大会(愛知 大 学主催オンラ イン開催)自 由論題⑨	日立地域の中小ものづくり企業の国際化において、中核企業の要望に沿って海外投資を行う「追従型国際化中小企業」の実態についての分析を行い、考察内容を発表した。
11-22	シンポジウム・講演 会主催	オンライン・シンポジウム「Withコ ロナ時代のSDGs」開催 2020年11月24日	富田敬子学長	常磐大学／一 般市民	基調報告「SDGs最新の動向」では、富田敬子学長が、Withコロナ時代の活用術として「危機管理対策強化、テレワーク等の導入、労働慣行、雇用形態を見直し女性の活用」などについて報告。その後、藤田正孝国際機関日本アセアンセンター事務総長が「コロナ禍と貧困」、高橋靖水戸市長が「コロナ禍と保健医療」、三富和代NPO法人ウィメンズネットら「代表理事が「コロナ禍といのち・暮らし」、三村信男茨城大学地球・地域環境共創機構特命教授が「コロナ禍と環境・災害問題」について事例発表を行った。

事業種別	事業名/研究・プロジェクト名/ 著書・学術論文等の名称	実施日/開始日 発行または発表日	本学参加者/担当 教員/所管部署	連携先/主催 組織/発行所 /対象等	概要
11-23	書籍執筆 『1964年と2020年くらべて楽しむ 地図帳』(茨城県、埼玉県、千葉 県に係るページを分担執筆)	2020年12月25日	元木理寿准教授	『1964年と2020年くらべて楽しむ地図帳』松井秀郎編、二宮書店協力、山川出版社	左記書籍の茨城県、埼玉県、千葉県に係るページを次の通り分担執筆した。 ・茨城県—東京大都市圏を支える豊かな自然と産業基盤(PP.66-69):霞ヶ浦の水資源開発と食糧基地化する周辺地域、大規模な国家プロジェクトによる各種の産業開発の観点から茨城県の変容について解説した。 ・埼玉県—首都東京の拡大により急速に展開した都市化(PP.74-77):急展開したベッドタウン化と人口増加、歴史と自然を活かした産業・観光の2方向の観点から埼玉県の変容について解説した。 ・千葉県—東京湾岸のリゾート地域開発と後背地の産業の変化(PP.78-819):臨海工業地域と食糧基地としての変貌、臨海地域の交通とリゾート地域の開発の観点から千葉県の変容を解説した。
11-24	地域連携(講師派遣) 茨城県地球温暖化防止活動推進センター推進員第2回スキルアップ研修会	2021年1月14日	富田敬子学長	茨城県地球温暖化防止活動推進員	「地球温暖化リスクと気候非常事態からSDGs」と題された研修会で、富田敬子学長が、「地球的課題としての環境問題」をテーマに講演を行った。
<div style="background-color: #f0f0f0; padding: 5px;">  <p>12 つくも責任 つかう責任</p> <p>ゴール12: つくる責任つかう責任</p> </div>					
12-1	施設・設備 会議のペーパーレス化	2020年度	学事センター	教職員	省エネルギーおよび環境保護の取り組みを推進するため、主に学事センターが所管する会議において、会議資料閲覧用タブレット(70台)および会議資料提示のための無線通信設備等からなる「ペーパーレス会議システム」を導入した。
12-2	授業 「プロジェクトC」サブタイトル: 身近な日常から始めるSDGs: 地球市民として生きるために	2020年度	且末ゆみ教授、小関一也准教授、Kevin McManus助教	「プロジェクトC」履修学生	「地球市民教育(Global Citizenship Education)」の理論と実践をもとに、国連「持続可能な開発目標(SDGs: Sustainable Development Goals)」について理解を深め、最終的に私たちの日常生活の変容を目指すことを目的として、実践活動を含む授業を行った。履修学生は、身近なところからの実践事例として、マイバッグの活用、購入食品の消費期限の記載、フェアトレード商品購入推進などを、制作したリーフレットやインスタグラム、「トキワ de SDGs」専用HPで紹介した。
<div style="background-color: #f0f0f0; padding: 5px;">  <p>13 気候変動に 具体的な対策を</p> <p>ゴール13: 気候変動に具体的な対策を</p> </div>					
13-1	地域連携(委員) 茨城県地球温暖化防止活動推進員	2020年4月~2021年3月	中村和彦専任職員	茨城県	地球温暖化対策の推進に関する法律第23条第1項の規定に基づく茨城県地球温暖化防止活動の推進員(委嘱期間:2012年4月から2022年3月まで)。
13-2	地域連携(委員) 茨城県地球温暖化防止活動推進員	2020年4月~2021年3月	松原哲哉准教授	茨城県	地球温暖化対策の推進に関する法律第23条第1項の規定に基づく茨城県地球温暖化防止活動の推進員(委嘱期間:2016年4月から2022年3月まで)。
13-3	授業 物質とエネルギー	2020年度春semester	中原史生教授	常磐大学/学生	近年、人間と自然とが関わる問題、特に人口の爆発的増大にともなうエネルギー資源および物質資源の消費の増大と、それらの廃棄にもなる環境汚染の問題が顕在化し、地球的規模での危機が強く認識されている。本講義は、地球システムにおける様々な物質の存在形態を紹介し、それらの変化を相互に作用しあう系と系との間の物質循環やエネルギーの流れとして、広い視野から理解を深める内容であった。
13-4	共同研究(外部助成)・報告書 「北関東下野における天保の凶作・飢饉と在地社会の応答」(『気候変動から読み直す日本史第6巻 近世の列島を俯瞰する一南から北へ』第5章)	2020年11月30日	平野哲也教授	『気候変動から読み直す日本史6 近世の列島を俯瞰する一南から北へ』第5章、鎌谷かおる、佐藤大介編、臨川書店	総合地球環境学研究所のプロジェクト「高分解能古気候学と歴史・考古学の連携による気候変動に強い社会システムの探索」に参加し、研究成果を論文集で公表した。数十年周期で繰り返された気候変動(温暖期・寒冷期)に対して、近世の権力・地域社会・村・農民がいかに対応し、生業と暮らしを維持させていったか、北関東を事例に解明した。気候変動の影響と人間社会の応答を検討し、先人の経験・知恵に学ぼうとする文理融合研究である。
13-5	地域連携(講師派遣) 茨城県地球温暖化防止活動推進センター推進員第2回スキルアップ研修会	2021年1月14日	富田敬子学長	茨城県地球温暖化防止活動推進員	「地球温暖化リスクと気候非常事態からSDGs」と題された研修会で、富田敬子学長が、「地球的課題としての環境問題」をテーマに講演を行った。
<div style="background-color: #f0f0f0; padding: 5px;">  <p>14 海の豊かさを 守ろう</p> <p>ゴール14: 海の豊かさを守ろう</p> </div>					
14-1	研究(科学研究費補助金) マイルカ科鯨類における音声コミュニケーションと社会的知性の進化	2017年4月~2021年3月	中原史生教授(研究代表者)	日本学術振興会	マイルカ科の鯨類を対象に、向社会行動および欺き行動時における音声コミュニケーションの種差を観察と実験から明らかにし、鯨類の社会的知性の進化的基盤を探ることを目的とする研究。
14-2	授業 生態学(生態学入門)	2020年度	中原史生教授	常磐大学/学生	近年、環境問題や生態系保全への関心が高まっているが、生態系を理解することなくしてこれらの問題の本質を理解することはできない。生物の集団および生物と環境との関係を取り扱う生態学は、生態系を理解する上で基本的に必要となる重要な学問分野である。本講義では、生態系や生物多様性を保全していくうえで必要な生態学的視点から物事を判断するための知識を修得する。
14-3	報道取材協力 「オーストラリア プレマールベイ シロナガスVSシャチ 奇跡の海に巨大生物が集う」(NHK BSプレミアム)	2020年7月20日	中原史生教授	NHK/一般市民	中原史生教授が取材協力したNHK BSプレミアム ワイルドライフ「オーストラリア プレマールベイ シロナガスVS シャチ 奇跡の海に巨大生物が集う」が放送された。

事業種別	事業名/研究・プロジェクト名/著書・学術論文等の名称	実施日/開始日/発行または発表日	本学参加者/担当教員/所管部署	連携先/主催組織/発行所/対象等	概要	
14-4	論文(学会誌報告)	「根室海峡で確認された日本初記録のシャチ(Orcinus orca)白色個体」(日本哺乳類学会『哺乳類科学』60巻2号)	2020年7月31日	中原史生教授	日本哺乳類学会『哺乳類科学』60巻2号	『哺乳類科学』60巻2号に、報告「根室海峡で確認された日本初記録のシャチ(Orcinus orca)白色個体」(大泉宏・幅祥太・中原史生・三谷曜子・北夕紀・斎野重夫・吉岡基)が掲載された。
14-5	地域連携(学生によるアウトリーチ)	いばらきの地魚プロジェクト	2020年10月1日	健康栄養学科飯村裕子助教とゼミナール学生、経営学科	いばらきの地魚取扱店認証委員会	いばらきの地魚取扱店認証委員会と常磐大学が連携協力をし、「いばらきの地魚プロジェクト」が開始。このプロジェクトは、地元茨城県産の水産物「いばらきの地魚」の流通促進・流通拡大と県民に対する地魚の認知度向上を図る取り組みを行っている「いばらきの地魚取扱店認証委員会」が抱えている問題点・課題の解決に向けて取り組むもの。2020年度、この課題に取り組むのは、人間科学部の健康栄養学科と総合政策学部の経営学科。2021年1月には報告会をオンラインで実施した。
14-6	報道取材協力	「激闘 シャチ対シロナガスクジラ～巨大生物集う謎の海域～」(NHK総合 NHKスペシャル)	2020年11月14日	中原史生教授	NHK/一般市民	中原史生教授が取材協力したNHK総合 NHKスペシャル「激闘 シャチ対シロナガスクジラ～巨大生物集う謎の海域～」が放送された。
14-7	報道取材協力	「ダーウィンが来た!「クジラを追う!謎の巨大ザメ大追跡」(NHK総合 NHKスペシャル)	2021年2月28日	中原史生教授	NHK/一般市民	中原史生教授が取材協力したNHK総合「ダーウィンが来た!「クジラを追う!謎の巨大ザメ大追跡」が放送された。



ゴール15: 陸の豊かさも守ろう


15-1	授業	生態学(生態学入門)	2020年度	中原史生教授	常磐大学/学生	近年、環境問題や生態系保全への関心が高まっているが、生態系を理解することなくこれら問題の本質を理解することはできない。生物の集団および生物と環境との関係を取り扱う生態学は、生態系を理解する上で基本的に必要となる重要な学問分野である。本講義では、生態系や生物多様性を保全していくうえで必要な生態学的視点から物事を判断するための知識を修得する。
15-2	授業・地域連携(学生によるアウトリーチ)	「常磐大学ファームプロジェクト」	2020年4月～2021年3月	松原哲哉准教授、ゼミナール学生	1.「ふくしまの子供達とつながる茨城保養の会」、2.ひたちなか市民	概要:2007年度より本ゼミが地域と連携協力し、ひたちなか市枝川と常陸太田市上利員の二箇所の耕作放棄地を再活用して、「コシヒカリ、ユメカオリ(小麦)、常陸秋蕎麦を栽培、それらの収穫物を使って、以下2つの地域振興活動を実施。 1. 福島県の子供達を放射線被爆から守る活動を展開する「ふくしまの子供達とつながる茨城保養の会」の運営会議にゼミ生が出席。また、同会が桜川市で福島在住の親子を対象に開催する被曝保養行事に、上記ユメカオリを提供。 2. ひたちなか市内の正安寺と連携し、同寺主催の「こども食堂」(12/9実施)で市内の50名の親子を対象に、上記の常陸秋蕎麦を使った蕎麦会を開催。
15-3	授業・地域連携(学生によるアウトリーチ)	「常磐大学生きもの森プロジェクト」	2020年4月～2021年3月	松原哲哉准教授、ゼミナール学生	「花王・みんなの森作り活動助成」、「エコーいばらき環境保全基金」	2018年度より本ゼミが、「花王・みんなの森作り活動助成」、「エコーいばらき環境保全基金」、「いばらきコープ環境基金」の助成を受けて開始した活動。「五感で楽しめる身近な環境教育の場作り」をテーマに、学内外に広がる「常磐の森」の動植物の保全、植樹を実施。さらに、常磐大学幼稚園と連携して、自生サイクルを回復させたゲンジボタルの観賞会を開催。
15-4	授業・地域連携(学生によるアウトリーチ)	「ホテルネットワークmito」	2020年4月～2021年3月	松原哲哉准教授、ゼミナール学生	常磐大学/地域の子供達	本ゼミ同様、信楽園公園内で森やホテルの再生活動に取り組む「逆川こどもエコクラブ」、水戸英宏小・中学校、水戸市公園管理協会の3団体と連携し、2015年度より「ホテルネットワークmito」を結成。同公園内の3カ所で行われた森と動植物の保全活動や生きもの観察会に協力。さらに、千波湖周辺で実施された各種の環境教育活動もサポート。
15-5	報道取材協力	『ニッポンの里山』「ふるさとの絶景に出会う旅 街によみがえれ! 黄門様のホテル 茨城水戸市」(NHKBSプレミアム)	2020年7月12日	松原哲哉准教授、ゼミナール学生	NHK/一般市民	本ゼミで取り組んできた森とホテルの再生活動が、番組『ニッポンの里山』の取材を受け、紹介された。
15-6	地域連携(講師派遣)	農福連携技術支援者育成研修講師派遣	2020年9月	人間科学部教員	農林水産省農林水産研修所	農福連携技術支援者育成研修講師として本学教員を派遣した。



ゴール16: 平和と公正をすべての人に

16-1	研究(学内課題研究)	基礎自治体管理職のリーダーシップに関する研究:茨城県内23市の幹部職員を対象として	2020年度～2021年度	佐々木 一如准教授(代表)、砂金祐年教授	常磐大学	茨城県内の基礎自治体幹部職員に対するアンケート調査を実施し、より良いローカル・ガバナンスのために求められるリーダーシップのあり方に関する調査を実施した。
16-2	地域連携(委員)	那珂市まち・ひと・しごと創生本部有識者会議委員	2020年4月～2021年3月	総合政策学部教員	那珂市	那珂市まち・ひと・しごと創生本部有識者会議委員として本学教員を派遣した。
16-3	地域連携(委員)	茨城県地球温暖化防止活動推進員	2020年4月～2021年3月	中村和彦専任職員	茨城県	地球温暖化対策の推進に関する法律第23条第1項の規定に基づく茨城県地球温暖化防止活動の推進員(委嘱期間:2012年4月から2022年3月まで)。
16-4	地域連携(委員)	茨城県地球温暖化防止活動推進員	2020年4月～2021年3月	松原哲哉准教授	茨城県	地球温暖化対策の推進に関する法律第23条第1項の規定に基づく茨城県地球温暖化防止活動の推進員(委嘱期間:2016年4月から2022年3月まで)。
16-5	地域連携(委員)	水戸市社会福祉審議会委員	2020年5月～2022年5月	人間科学部教員	水戸市	水戸市社会福祉審議会委員として本学教員を派遣した。
16-6	地域連携(委員)	水戸市社会福祉審議会児童福祉専門分科会委員	2020年5月～2022年5月	人間科学部教員	水戸市	水戸市社会福祉審議会児童福祉専門分科会委員として本学教員を派遣した。

事業種別	事業名／研究・プロジェクト名／著書・学術論文等の名称	実施日／開始日 発行または発表日	本学参加者／担当 教員／所管部署	連携先／主催 組織／発行所 ／対象等	概要
16-7 地域連携(委員)	「社会科学の根拠づくりとオープンな議論の場づくり推進業務」における企画運営委員および「地域社会と原子力に関する社会科学的研究支援」に伴う選考委員	2020年5月～2021年3月	総合政策学部教員	東海村	「社会科学の根拠づくりとオープンな議論の場づくり推進業務」における企画運営委員および「地域社会と原子力に関する社会科学的研究支援」に伴う選考委員として本学教員を派遣した。
16-8 地域連携(委員)	社会福祉法人水戸市社会福祉協議会選任・解任委員会委員	2020年6月～2024年6月	人間科学部教員	社会福祉法人水戸市社会福祉協議会	社会福祉法人水戸市社会福祉協議会選任・解任委員会委員として本学教員を派遣した。
16-9 地域連携(委員)	茨城県青少年健全育成審議会委員	2020年7月～2022年6月	人間科学部教員	茨城県消防協会	茨城県青少年健全育成審議会委員として本学教員を派遣した。
16-10 地域連携(委員)	水戸市地域包括支援センター運営協議会委員	2020年7月～2022年7月	人間科学部教員	水戸市	水戸市地域包括支援センター運営協議会委員として本学教員を派遣した。
16-11 地域連携(委員)	那珂市補助金等審議委員会委員	2020年8月～2022年7月	総合政策学部教員	那珂市	那珂市補助金等審議委員会委員として本学教員を派遣した。
16-12 地域連携(委員)	小美玉市行財政改革懇談会委員	2020年8月～2023年8月	総合政策学部教員	小美玉市	小美玉市行財政改革懇談会委員として本学教員を派遣した。
16-13 地域連携(委員)	水戸市配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する基本計画検討専門委員	2020年9月～2021年3月	人間科学部教員	水戸市	水戸市「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する基本計画」検討専門委員として本学教員を派遣した。
16-14 地域連携(委員)	那珂市行政不服審査会委員	2020年10月～2022年9月	総合政策学部教員	那珂市	那珂市行政不服審査会委員として本学教員を派遣した。
16-15 地域連携(委員)	公益財団法人茨城県薬剤師会倫理審査委員会委員	2020年11月	総合政策学部教員	公益財団法人茨城県薬剤師会	公益財団法人茨城県薬剤師会倫理審査委員会委員として本学教員を派遣した。
16-16 シンポジウム・講演会主催	常磐大学社会安全政策研究所主催、第3回茨城社会安全研究会オンラインシンポジウム開催	2021年1月13日	尾崎久仁子特任教授、千手正治教授(社会安全政策研究所)	一般・学生	「世界及び茨城県におけるSDGsからみた被害者の保護・支援」をテーマにした常磐大学社会安全政策研究所主催の第3回茨城社会安全政策研究会オンラインシンポジウムが本学を拠点として開催された。前国際刑事裁判所判事で本学総合政策学部法律行政学科の尾崎久仁子特任教授、茨城県警察本部生活安全部人身安全対策課の高島茂之課長補佐が事例発表、本学社会安全政策研究所の千手正治所長が司会および指定討論を行った。
16-17 地域連携(審査員派遣)	第44回全国消防職員意見発表会茨城県大会審査員	2021年2月～3月	総合政策学部教員	茨城県消防協会	第44回全国消防職員意見発表会茨城県大会審査員を本学教員が担当した。
16-18 地域連携(委員)	かすみがうら市入札監視委員会委員	2021年2月～2023年2月	総合政策学部教員	かすみがうら市	かすみがうら市入札監視委員会委員として本学教員を派遣した。
16-19 地域連携(委員)	笠間市学校跡地等利活用事業候補者公募選定委員会委員	2021年3月	総合政策学部教員	笠間市	笠間市学校跡地等利活用事業候補者公募選定委員会委員として本学教員を派遣した。

17 パートナースHIPで目標を達成しよう

ゴール17: パートナースHIPで目標を達成しよう

17-1 研究(科学研究費補助金)	ボランティア日本語教室における継続的内容改善と持続可能な運営システムの構築	2019年～2021年	飯野令子准教授	公益財団法人水戸市国際交流協会	茨城県水戸市で開設されている「生活者としての外国人」のための複数のボランティア日本語教室が、研究者および水戸市国際交流協会とともに、内容面の継続的改善と持続可能な運営を可能にする、「水戸システム」を構築するものである。本研究の特色は、これまで文化庁や地域日本語教育研究者の提案には入れられず、先進的な取り組みから切り離されてきた、「学校型」の教室活動を続ける既存のボランティアとの協働により、ともに新規ボランティアを育成しながら、既存のボランティアにも活動内容の変化を求めることである。
17-2 地域連携(学生によるアウトリーチ)	カサマノシネマプロジェクト	2020年4月～2021年3月	人間科学部・総合政策学部	笠間市	笠間市内で保管されている8ミリフィルムをデジタル化する地域映画制作に本学学生が関わった。完成披露上映会では本学学生が主体的な運営を行った。
17-3 地域連携(学生によるアウトリーチ)	フロイデ水戸メディカルプラザ連携活動	2020年4月～2021年3月	健康栄養学科	医療法人博仁会	フロイデ水戸メディカルプラザに併設するコミュニティカフェにて、本学学生が考案したランチメニューの提供を行った。
17-4 授業・地域連携(学生によるアウトリーチ)	「常磐大学ファームプロジェクト」	2020年4月～2021年3月	松原哲哉准教授、ゼミナール学生	1.「ふくしまの子供達とつながる茨城保養の会」、2.ひたちなか市民	概要:2007年度より本ゼミが地域と連携協力し、ひたちなか市枝川と常陸太田市上利員の二箇所の耕作放棄地を再活用して、コシヒカリ、ユメカオリ(小麦)、常陸秋蕎麦を栽培、それらの収穫物を使って、以下2つの地域振興活動を実施。 1. 福島県の子供達を放射線被爆から守る活動を展開する「ふくしまの子供達とつながる茨城保養の会」の運営会議にゼミ学生が出席。また、同会が桜川市で福島在住の親子を対象に開催する被曝保養行事に、上記ユメカオリを提供。 2. ひたちなか市内の正安寺と連携し、同寺主催の「こども食堂」(12/9実施)で市内の50名の親子を対象に、上記の常陸秋蕎麦を使った蕎麦会を開催。
17-5 授業・地域連携(学生によるアウトリーチ)	「ホタルネットワークmito」	2020年4月～2021年3月	松原哲哉准教授、ゼミナール学生	常磐大学／地域の子ども達	本ゼミ同様、偕楽園公園内で森やホタルの再生活動に取り組み「逆川こどもエコクラブ」、水戸英宏小・中学校、水戸市公園管理協会の3団体と連携し、2015年度より「ホタルネットワークmito」を結成。同公園内の3カ所で開催された森と動植物の保全活動や生きもの観察会に協力。さらに、千波湖周辺で実施された各種の環境教育活動もサポート。
17-6 授業・地域連携(学生によるアウトリーチ)	「ときわこども新聞」を発行し、地域の小学校へSDGs啓発活動を開始	2020年4月～2021年3月	旦まゆみ教授、ゼミナール学生	常磐小学校、見川小学校、梅が丘小学校児童	2020年度、総合政策学部経営学科の旦まゆみ教授と4名の学生による、大学近隣の小学校の児童と交流し、SDGsの理解を深める活動が開始。ゼミナールの学生がSDGsを紹介する「ときわこども新聞」を年3回(5月・9月・1月)テーマを変えて作成し、常磐小学校、見川小学校、梅が丘小学校の4年生から6年生の児童に配布。
17-7 地域連携(講師派遣)	かさま志民大学	2020年5月24日	富田敬子学長	笠間市民	かさま志民大学オープンカレッジ第1回に本学富田学長が、「かさま創生とSDGs—持続可能な地域づくりにむけて—」というタイトルで講演を行った。

事業種別	事業名／研究・プロジェクト名／著書・学術論文等の名称	実施日／開始日 発行または発表日	本学参加者／担当 教員／所管部署	連携先／主催 組織／発行所 ／対象等	概要
17-8 国際交流	2020年度常磐大学交換留学制度採用学生(派遣・受入)のオンライン交流会	2020年6月30日 2020年7月7日	本学学生・協定校学生(国際交流語学学習センター)	海外協定校	常磐大学交換留学制度で協定校への派遣留学に採用された本学学生と、本学への留学に採用となっていた海外協定校学生同士が繋がり、留学に向けた思いを共有する機会を提供するため、オンライン交流会を実施。
17-9 地域連携(会議構成協力)	令和2年度茨城県地域日本語教育の体制づくり推進事業 総合調整会議構成員	①2020年7月3日 ②2020年10月16日 ③2020年12月18日 ④2021年3月(書類)	飯野令子准教授	茨城県	茨城県は令和2年度から3年計画で文化庁の助成をうけ、地域日本語教育の体制づくりを推進することになった。その事業全体の内容について議論する会議の一員となり、計4回の会議に出席した。
17-10 地域連携(交流会指導協力)	茨城日本語ボランティアネットワークオンライン交流会開催	①2020年7月16日 ②2021年2月3日	飯野令子准教授	茨城県	令和2年度初めから運営している日本語ボランティアのためのウェブサイトを通して、オンライン交流会を呼び掛け、2回実施した。1回目はボランティアがオンラインに慣れること、2回目はオンラインでの日本語教室の開催について、情報提供と情報交換を行った。1回目は20名ほど、2回目は40名ほどの参加があった。
17-11 地域連携(講師派遣)	令和2年茨城県市町村教育長協議会夏期研修会講師派遣	2020年7月20日	富田敬子学長	茨城県市町村教育長協議会	富田敬子学長が、「社会と子どもたちをつなぐSDGs教育—SDGs達成に向けた学校教育の役割—」をテーマに講演。SDGsがどういったものなのか、またそれを推進していくために学校教育の現場において、どのように子どもたちに学ばせ、知識や意識を身に付けさせるかなど、取り組みや事例を紹介した。
17-12 地域連携(協定)	常磐大学と常磐短期大学および社会福祉法人水戸市社会福祉協議会と包括連携協定の締結	2020年7月21日	地域連携センター	社会福祉法人水戸市社会福祉協議会	次の項目の推進のために、水戸市社会福祉協議会と包括連携協定を締結した。 ・地域福祉の発展に関すること ・福祉人材の育成に関すること ・調査・研究事業に関すること ・その他前条の目的を達成するために必要な事項に関すること
17-13 学内ESD交流	ESD(SDGs達成のための教育推進)事業	2020年7月21日	渡邊洋子准教授、 且まゆみゼミナール学生	常磐大学教育学科「国語」履修者	且まゆみゼミナールの学生3名が、教育学科初等教育コースの「国語」を履修する学生を対象に、「とさわこども新聞」を配布。将来小学校教員としてSDGs教育を行う学生に、SDGs・ESDへの理解を深める取り組みを行った。
17-14 地域連携(協定)	常磐大学と常磐短期大学および一般社団法人水戸観光コンベンション協会との包括連携協力協定書の締結	2020年8月4日	地域連携センター	一般社団法人水戸観光コンベンション協会	水戸市の観光による活性化への連携・協力を目的に、水戸観光コンベンション協会と、次の事項について協定を締結した。 ・地域活性化に関すること ・地域観光の振興に関すること ・コンベンション誘致に関すること ・教育・研究および人材育成に関すること ・その他前条の目的を達成するために必要な事項に関すること
17-15 授業・地域連携(企業連携・学生によるアウトリーチ)	「マーケティング演習」	2020年8月26日	村中均准教授、 「マーケティング演習」履修学生	株式会社フットボールクラブ水戸ホーリーホック	「常磐大学×水戸ホーリーホックコラボデー」の集客イベントを担当してきた経営学科専攻科目の「マーケティング演習」(村中均准教授担当)で、水戸ホーリーホック戦参加者に楽しんでもらえるようなイベントをコンセプトに、ファッションイベント、サッカーテレビゲームイベント、料理対決イベントなど、8つのグループからオンラインイベントが提案された。
17-16 地域連携(企業連携)	「常磐大学×水戸ホーリーホック応援デー」をオンラインで開催	2020年8月29日	地域連携センター	株式会社フットボールクラブ水戸ホーリーホック	地域社会の活性化および両者の発展的な連携協力事業の一環として、常磐大学&水戸ホーリーホックコラボデーを夏期に実施。常磐大学はもとより、常磐大学高等学校、智学館中等教育学校および常磐大学幼稚園の教職員、学生、生徒、園児も参加。2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大によりオンラインで応援メッセージを録画し、当日放映。
17-17 地域連携(学生によるアウトリーチ)	常陸太田市活性化プロジェクト	2020年9月～	総合政策学部	常陸太田市役所	常陸太田市の活性化策を、本学学生が提案。
17-18 地域連携(協定)	常磐大学と公益財団法人いばらき中小企業グローバル推進機構との連携協力に関する協定書の締結	2020年9月1日	地域連携センター	公益財団法人いばらき中小企業グローバル推進機構	・起業家及び中核人材の育成に関する授業並びに課外講座の実施に関すること ・学生の就職支援及び中小企業の人材採用に関すること ・ビジネスアイデアコンテストの実施に関すること ・産学連携共同研究、研究・論文の成果発表会等に関すること ・地方創生に関すること ・その他、学生及び中小企業の成長発展に関すること
17-19 論文(学内紀要論文)	派遣留学生の経験を理解し今後の指導につなげる—学生のライフストーリーの聞き取りを中心に—	2020年9月1日	飯野令子准教授	『常磐大学人間科学部紀要人間科学』第38巻、第1号(単著)	本学の教職員が、学生の留学を阻害する要因を取り除くために、どのような働き掛けを行っていくか、そして留学経験者や留学志望者をどのように指導していくか検討することを目的とした。2018年度派遣留学生7名のライフストーリー・インタビューおよび、留学振り返りシートについて、5つのカテゴリー(1)異文化間能力・外国語運用能力、(2)学業、(3)社会性・人としての成長、(4)雇用され得る能力、(5)社会貢献を視点に分析した。
17-20 地域連携(講師派遣)	茨城県経営者協会「With コロナ」を見据えた経営変革の指標としてのSDGsを学ぶ講演会への講師派遣	2020年9月11日	富田敬子学長	会員企業	茨城県経営者協会「With コロナ」を見据えた経営変革の指標としてのSDGsを学ぶ講演会で、富田敬子学長が、「With コロナ時代のSDGs—企業経営の視点から」とのテーマで講演を行った。

事業種別	事業名/研究・プロジェクト名/ 著書・学術論文等の名称	実施日/開始日 発行または発表日	本学参加者/担当 教員/所管部署	連携先/主催 組織/発行所 /対象等	概要
17-21 地域連携(協定)	常磐大学と常磐短期大学及び城里町との連携協力に関する協定書の締結	2020年9月29日	地域連携センター	城里町	城里町と、次の事項について協定を締結した。 ・知的資源、人的資源および物的資源の相互の活用に関すること ・地域の政策課題に関すること ・地域活性化に寄与する人材の育成に関すること ・共同で実施する事業の企画および推進に関すること ・その他甲、乙および丙が必要と認める事項に関すること
17-22 地域連携(講座指導協力)	水戸市初級日本語ボランティア養成講座修了者の会開催	①2020年9月30日 ②2020年12月23日 ③2021年3月24日	飯野令子准教授	水戸市	2019年度から継続的に実施しているが、2020年度前半は感染症予防の観点から開催していなかった。9月から再開し、これまで通り、日本語ボランティア活動の情報交換と活動へのアドバイスをを行っている。
17-23 高大連携(海外研修事前研修受託)・国際交流	茨城県立緑岡高等学校令和2年度海外短期留学(バンクーバー研修)事前研修	2020年10月～3月	富田敬子学長、砂金祐年教授、正木聡教授、小関一也准教授、元木理寿准教授、佐々木一如准教授、山田誠治助教	茨城県立緑岡高等学校バンクーバー研修参加予定者、カナダ・ランガラカレッジ学生	茨城県立緑岡高等学校の依頼を受け、令和2年度海外短期留学(バンクーバー研修)事前研修を実施。カナダの歴史、地理、政治、経済、文化、社会等をテーマに8回の講義を提供。 ①(10/13)カナダの歴史～先住民族と移民が築いた歴史(富田敬子学長) ②(11/5)地理学から読み解くカナダ～地域の持続可能性を考える(元木理寿准教授) ③(11/10)カナダの政治～プリティッシュ・コモンウェルス(英連邦)としての政治体制と地方自治(砂金祐年教授) ④(11/19)日本人のカナダ観光の変遷と現状(正木聡教授) ⑤(12/3)カナダ経済の特徴とグローバル経済から見る日加関係(山田誠治助教) ⑥(12/22)カナダ社会の多様性～多文化主義とマイノリティ(小関一也准教授) ⑦(1/26)カナダの行政と危機管理～社会の「安全」と「安心」はどこから来るのか?(佐々木一如准教授) ⑧(1/28)グローバル社会とSDGs(富田敬子学長) さらに、3月30日には、本学のカナダの協定校であるランガラ・カレッジの学生有志とオンラインで交流を行った。
17-24 地域連携(学生によるアウトリーチ)	「いばらきの地魚プロジェクト」が開始	2020年10月1日	健康栄養学科飯村裕子助教とゼミナール学生、経営学科	いばらきの地魚取扱店認証委員会	いばらきの地魚取扱店認証委員会と常磐大学が連携協力をし、「いばらきの地魚プロジェクト」が開始。このプロジェクトは、地元茨城県産の水産物「いばらきの地魚」の流通促進・流通拡大と県民に対する地魚の認知度向上を図る取り組みを行っている「いばらきの地魚取扱店認証委員会」が抱えている問題点・課題の解決に向けて取り組むもの。2020年度、この課題に取り組むのは、人間科学部の健康栄養学科と総合政策学部の経営学科。2021年1月には報告会をオンラインで実施。
17-25 地域連携(講師派遣)	水戸啓明高校 地域国際交流授業協力	2020年10月6日、13日		水戸啓明高校教員/生徒	高校教員とオンラインで事前の打ち合わせを行い、その後2回にわたり、本学正規留学生と高校生がオンラインで、地域の多文化共生を考えるディスカッションに協力した。留学生に対しては水戸市の住みやささについて、外国人の目線で考える事前、事後の指導を実施した。
17-26 地域連携(講師派遣)	ひたちなか市初級日本語ボランティア養成講座講師	2020年10月7日～2021年2月17日(全10回)	飯野令子准教授	ひたちなか市国際交流協会	茨城県国際交流協会の日本語教育アドバイザー派遣事業で、ひたちなか市の国際交流協会に派遣され、日本語ボランティア養成講座の講師を務めた。受講者12名で、前半は対面、後半はオンラインで、地域の日本語教室向けの日本語支援の方法を指導した。
17-27 地域連携(講師派遣)	水戸市日本語プレ初級クラス・コーディネーター	①2020年11月18日～12月18日(全10回) ②2021年2月17日～3月18日(全10回)	飯野令子准教授	公益財団法人水戸市国際交流協会	水戸市国際交流協会が主催する日本語クラスの講師と、講師陣をまとめコース内容を総括するコーディネーターを担当した。水戸市と近隣市町村在住の、来日直後、あるいはこれまで日本語学習機会がなかった外国人を対象にした日本語入門クラスである。講師会議、授業ともに対面での実施をした。
17-28 シンポジウム・講演会主催	オンライン・シンポジウム「Withコロナ時代のSDGs」開催	2020年11月24日	富田敬子学長/地域連携センター	常磐大学/一般市民	基調報告「SDGs最新の動向」では、富田敬子学長が、Withコロナ時代の活用術として「危機管理対策強化、テレワーク等の導入、労働慣行、雇用形態を見直し女性の活用」などについて報告。その後、藤田正孝国際機関日本アセアンセンター事務総長が「コロナ禍と貧困」、高橋靖水戸市長が「コロナ禍と保健医療」、三富和代NPO法人ウィメンズネットらいず代表理事が「コロナ禍といのち・暮らし」、三村信男茨城大学地球・地域環境共創機構特命教授が「コロナ禍と環境・災害問題」について事例発表を行った。
17-29 シンポジウム・講演会主催	「コロナ禍をオンラインで考えるシンポジウム」を開催	2020年12月19日	法律行政学科	常磐大学吉田一一般/自治体職員・議員	法律行政学科吉田勉ゼミの1年間のゼミ活動集大成としてシンポジウムを開催。2020年度はコロナ禍でもあり、開催をオンライン(Googlemeet)に切り替え、テーマも「コロナ禍」そのものに焦点を当てた。ゼミ生(法律行政学科3年生)が、パネリストの自治体職員・議員と意見交換をするディスカッションが展開された。
17-30 シンポジウム・講演会主催	常磐大学社会安全政策研究所主催、第3回茨城社会安全研究会オンラインシンポジウム開催	2021年1月13日	尾崎久仁子特任教授、千手正治教授(社会安全政策研究所)	一般・学生	「世界及び茨城県におけるSDGsからみた被害者の保護・支援」をテーマにした常磐大学社会安全政策研究所主催の第3回茨城社会安全政策研究会オンラインシンポジウムが本学を拠点として開催された。前国際刑事裁判所判事で本学総合政策学部法律行政学科の尾崎久仁子特任教授、茨城県警察本部生活安全部人身安全対策課の高島茂之課長補佐が事例発表、本学社会安全政策研究所の千手正治所長が司会及びおおよそ定論を行った。
17-31 地域連携(講師派遣)	「地球的課題としての環境問題」(茨城県地球温暖化防止活動推進センター推進員第2回スキルアップ研修会)	2021年1月14日	富田敬子学長	茨城県地球温暖化防止活動推進員	「地球温暖化リスクと気候非常事態からSDGs」と題された研修会で、富田敬子学長が、「地球的課題としての環境問題」をテーマに講演を行った。

事業種別	事業名／研究・プロジェクト名／著書・学術論文等の名称	実施日／開始日 発行または発表日	本学参加者／担当 教員／所管部署	連携先／主催 組織／発行所 ／対象等	概要
17-32 授業・地域連携(学生によるアウトリーチ)	「商品戦略論」で課題レポート発表会(オンライン)を開催	2021年1月14日	「商品戦略論」履修学生	コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社	コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社から、大学内の自動販売機売上向上施策(自販機の場所、ドリンク構成、自販機のカラー・デザイン)提案という課題をいただき、8人の学生がプレゼンテーションを実施。売上が見込める新たな自販機の設置場所や、瓶コーラの販売、自販機のサブスクリプション化、ドリンクの低価格化等の提案がされた。
17-33 地域連携(学生によるアウトリーチ)	「若者によるエビデンスに基づく政策提言発表会」に参加	2021年1月19日	北根精美教授、ゼミナール学生	水戸市	水戸市役所会議室において行われた「若者によるエビデンスに基づく政策提言発表会」のメインテーマは、「水戸市が若者や女性が活躍でき、選ばれるまちとなるために、何が必要か」。当日は、茨城大学2チームとともに、本学北根ゼミ3名が代表として「サテライトオフィス誘致と子育て支援」をテーマに、約20分の発表を行った。
17-34 地域連携(外部評価委員協力)	令和2年度茨城県地域日本語教育の体制づくり推進事業 新規学修支援者開拓講座 外部評価委員	①2021年2月12日 ②2021年3月3日	飯野令子准教授	下妻市・坂東市	下妻市と坂東市で、新規日本語支援者(日本語ボランティア)開拓講座(3時間×5回)がオンラインで行われた。その内容に目を通し、会議で関係者と議論し、評価の視点を確認したのち、評価を行った。
17-35 地域連携(学生によるアウトリーチ)・国際交流	東京オリンピック・パラリンピックベルギー選手団におもてなし料理を開発	2021年2月21日	健康栄養学科、飯村裕子助教	「ホストタウンサミット2021」	東京オリンピック・パラリンピックで、ホストタウンの茨城県を訪れるベルギーの選手に地元のGAP食材を使用したおもてなし料理を、サークル「食品栄養研究会」に所属する人間科学部健康栄養学科の1・2年生9名が開発。「ホストタウン世界のおもてなし料理プロジェクト」には、全国14チームが参加し、2月21日にオンラインで開催される「ホストタウンサミット2021」で発表。
17-36 地域連携(学生によるアウトリーチ)	「水戸市の若者・女性が活躍できるまちづくり」(水戸市「若者によるエビデンスに基づく政策提言発表会」)	2021年3月4日	小笠原尚宏准教授、ゼミナール学生	水戸市	水戸市「若者によるエビデンスに基づく政策提言発表会」で、「水戸市の若者・女性が活躍できるまちづくり」をテーマに、本学小笠原ゼミ学生がオンラインで発表した。